

令和5年度 第1回北海道地学協働活動推進会議 グループ協議内容まとめ

テーマ「地域における地学協働体制を構築するための方策について」

→ブレイクアウトルームに分かれ、地域の課題とその解決策について協議した。

■A グループ 6名

【地域における地学協働活動の課題】

- ①町内の各校にコーディネーターが配置されているが、各コーディネーターの力量が様々。
- ②市独自で、コーディネーター向けの研修会やCS委員向けの研修会を行っているが、一体とした取組となっていない。
- ③地域によっては、学校に地域が入ることの難しさがある。

【解決策】

①及び②

→道教委がコーディネーターの育成に関わる学習会を行うことで、資質の向上を図ることができ、市町村外のコーディネーターともつながりをつくることが重要。

③→地域と学校が一体となった地学協働活動が必要。

■B グループ 6名

【地域における地学協働活動の課題】

学校は教職員の異動があるので、地域にどんな人がいるのか分からない。地域とのつながりがない。また、小中学校のPTA、CSは、自分たちに何ができるかなどを考え活発となっているが、高校のPTA、CSは広域であるためかまとまりがない。

【解決策】

①及び②に共通した解決策

- 地域において高校をバックアップするといった目標を明確にすること。
- コミュニティ・スクールを推進するためには、小・中学校は身近であるので、地域が自分事として考えること。
- 高校だけでなく小・中学校においても、地域が「地域創生」の視点を持って関わること。
- 持続可能とする方策として、地域に残り、活動の核となるのは、地域コーディネーターであるため、育成していくことが重要。